

がんの薬物療法について

「がん(癌)」の薬物療法とは、薬によりがん細胞を攻撃して殺したり、がんの進展を遅らせたり、または、がんによる症状を和らげたりする治療法のことです。

具体的には、「**化学療法**」「**分子標的療法**」「**免疫療法**」「**内分泌(ホルモン)療法**」などがあります。薬物療法には、1種類の薬を用いて治療することもあれば、数種類の異なる薬を組み合わせで治療することもあります。

■ 抗がん薬の種類と特徴

1) 化学療法

- ・細胞が分裂して増える過程に作用する抗がん剤で、細胞増殖の盛んな細胞ほど障害が大きくなります。

2) 分子標的療法

- ・がん細胞に存在する特殊な標的(遺伝子や遺伝子産物)に対して、ピンポイントで作用します。
- ・がん細胞に特殊な標的(遺伝子や遺伝子産物)が存在する人に高い有効性を発揮します。

※がん細胞の特殊な標的(遺伝子や遺伝子産物)の存在は、病理検査(免疫染色)や遺伝子検査で調べるができます。

3) 免疫療法(免疫チェックポイント阻害薬)

- ・薬が直接がん細胞に作用するのではなく、体内の免疫細胞が、がん細胞を排除しようとする働きを助けるお薬です。

4) 内分泌(ホルモン)療法薬

- ・体内の特定のホルモンの影響を受けて増殖する性質のがん(乳がん、前立腺がん、子宮体がん)に対して影響を抑えるように使う薬です。ホルモンに感受性が無い場合の有効性は低く、感受性があるか否かを調べてから使用します。

